

日常の生活でつい…

笠岡市吉田文化会館運営委員

鳥越 昌

貴重な体験

昨年は岡山県で国体が開催されました。日本全国各都道府県から多くの国体選手を迎えて盛大に大会が実施され、成功裏に終わりました。特にこの度の国体は選手の宿泊に民泊が取り入れられ、今までの国体とは異なりました。各地でそれぞれの県の選手が迎えられ、全国各地の人々との交流がなされました。国体終了後も心温まる交流が続いているとの報道もあり、明るいニュースとなっています。遠隔地で簡単には行くことのできない土地の人々との触れ合いは、書物やテレビ・ラジオ等の報道機関による一方的な情報とは異なり、選手の出身地の生活、地域の特色を直接具体的に肌で感じる事が出来る貴重なものでした。全国各地から集まった選手一人一人がそれぞれの県や町、村の生活や文化を宿泊地に運び、宿泊した土地の生活や文化を持ち帰ったと言えます。そして互いにスポーツを通じて生活の交流

がなされ、既成の知識や概念による固定的な見方や間違いを取り除くことが出来たとするならば、この度の国体はより意義の深いものになったと言えます。

思わぬ落とし穴

最近、日本語の乱れということがよく言われます。それは時に若者の作り出した新語であったり、外国語の直接的な表記や日本語にそのまま取り入れられた言葉であったり、外国語の日本語化であったり色々です。カタカナと漢字、ひらがなの混じり合った、しかもカタカナの部分が多多いものとなれば、分かりにくいものとなってしまいます。日常生活では日本語を常用しているものにとってはまことに迷惑至極です。こんなことが問題となって、国や地方自治体では国民に提示する公文書はこのカタカナ語を極力少なくして分かりやすいものにするようになっていきます。

しかし、講演や話し合いの場ではまだまだ外国語やカタカナ語がよく使われています。なぜ外国語やカタカナ語をわざわざ使用するのでしょいか。一つには、その外国語に相当する日本語がないかあってもその意

味が十分に伝えられない場合です。この場合は仕方がないと思います。

それ以外では適正な日本語があるにもかかわらず敢えて外国語をそのまま使用しているのはなぜでしょうか。

それは外国語を交ぜて話した方が教養が高いと考えていたり、また話を聞く方も意味が分からないまま質問することも出来ず分かつたような顔をしているからではないでしょうか。端的に言えば権威づけに利用していると言えましょう。ある放送局で美術の放送をしていました。アナウンサーの解説にしばしばグラデーションという言葉がでていたのですが、

もっと分かりやすく色のぼかし具合とでも言えばどの世代にも理解できます。また新聞紙上などでコンセンサスとかファクター等という言葉を見かけますが、これを合意あるいは賛同、要因と言えば誰にでも分かりやすくなります。私は外国語を使うことを否定しているわけではありません。誰にでも分かりやすい言葉があるのになぜ使わないのか疑問なのです。自分は外国語に優れた知識があるという意識や、難しい言葉を使う人を権威ある人物と考えていたなら、それはちよつと拙速にすぎないのではないでしょうか。逆に言えば権威主義であり、人を見下すことに繋が

る態度ではないでしょうか。人々との意思疎通は心の有り様によつて自然に言葉や態度に表れるものです。本当に分かつてほしい気持ちがあれば、自然に誰にでも分かる言葉で表現するでしょう。表面上の見かけだけや固定概念でものごとを判断することは、時によれば偏見や差別を助長する情報を生み出します。直接的な差別事象が見えにくくなった現在、こうした一見なんでもない事柄において落とし穴があることを自覚しておきたいものです。

人権啓発パネル

人権まんが「未来ちゃん」の

パネル貸出について

連載中の人権まんが「未来ちゃん」のパネルに、次の3枚が新たに追加されました。人権に関する研修会や地域での人権啓発などに活用ください。

- 第11回 児童虐待について
- 第12回 男女共同参画について
- 第13回 高齢者の虐待について

問合せ・申込み

吉田文化会館

☎1069